

## 「2022年度インドネシア大学スプリングスクール（オンライン）派遣参加報告書」

京都大学経営管理大学院・修士1年 善野多加良

## ① 学習成果

私は、社会人を経験した学生として現在ビジネススクールで学んでいるのですが、今までインドネシアを含めた東南アジア地域のマーケットと関わってきました。インドネシア人の同僚と関わり、同国のサプライヤー・顧客と商談を行う過程で、ビジネスの進め方などの根底にある歴史・文化・社会的背景について常々深く学びたいと思っていました。今回幸いにも纏まった時間が取れたので、言葉も含めてインドネシアについて系統立てて学びたいと考えた事がプログラムに参加させて頂いた理由です。

派遣プログラムを通じて言語だけでなく、文化、歴史などを学習し、インドネシア大学の学生とも様々な事について意見交換することが出来たので、期待以上の学びを得る事が出来たと思っています。

少なくとも自己紹介や簡単な会話程度はインドネシア語で出来るようになったので、次回インドネシアへ訪問した際、インドネシア語での会話にトライしたいです。また、日本語を真摯に学んでいるインドネシア大学の学生からも多くの刺激をもらったので、私も引き続きインドネシア語を学んでいきたいと思っています。

今回グループワークで友達になったインドネシア大学の学生とは今後もコミュニケーションを続けていき、いつか必ず対面で会いたいと思っています。

## ② 海外での経験

今回はオンライン留学だった為に、実際に現地にて経験したわけではなかったのですが、プログラム中にインドネシアの LAS ROHA という伝統的な踊りやオランダ統治時代の影響を受けた Pastel Krukup という料理をオンラインでありながらもハンズオンで学ぶ事が出来ました。また、オランダ東インド会社の拠点となったジャカルタの旧市街地 Kota Tua 地域へのオンラインツアーにも参加させて頂きました。ジャカルタには何度か出張で訪れた事があったのですが、このオンラインツアーを通して同地域の歴史についての見分を深める事が出来ました。

## ③ プログラム内容

京都大学でのインドネシア語集中レッスンに加えて、インドネシア大学における2週間の派遣プログラムは、言葉だけでなく同国の歴史・文化についても深く学ぶ事ができ、非常にバランスよく設計されていると感じました。またインドネシア大学の日本学科の学生の皆様とも交流する機会が多くあったので、現地の大学生がどのような事に興味を持って学生生活を送っているか、また卒業後に希望しているキャリアパスなどについても教えてもらう事が出来ました。人口ボーナスをもとに今後経済的にも益々発展していくと考えられている同国のトレンドについての知識を深める事ができたので非常に良かったです。

## ④ 進路への影響について

プログラムを通して、今後は、(少なくとも)今まで以上に多面的なコンテクストを意識しながらインドネシア人とコミュニケーションを取る事が出来るようになったと思います。これからもインドネシア人と仕事をする機会があるかと思いますが、学んだ知識を実践の場でも役立てていきたいと思っています。

最後になりますが、今回の派遣プログラムを企画・運営・サポート頂きました先生方、アジア研究教育ユニットの皆様、派遣プログラム前にインドネシア語の基礎を教えて下さった先生、TAの方、一緒にプログラムに参加した学生の皆様、そしてプログラム中も語学レッスンに加え様々なイベントを実施して頂いたインドネシア大学の教員、スタッフ、学生の皆様にも心から感謝したいと思います。皆様のおかげで、オンライン留学でありながらも実際に留学するのと変わらない水準のプログラムを受講することが出来ました。引き続き同プログラムが、インドネシア大学と京都大学の懸け橋になる事を期待したいと思います。今回は本当に良い経験になりました。有難うございます。